



第15号
平成25年(2013年)
4月・5月
・6月号
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

劫濁のときうつるには

有情ようやく身小なり

五濁惡邪まさるゆえ

正像末和讃（真宗聖典五〇一頁）

先日、新聞を開けると「孤立無業」という記事が目に飛び込んできた。それは、二十歳から五十九歳の働き盛りで、未婚者の無職の男女のうち社会と接点がない方々で、全国で百六十二万人に及ぶ（二〇一年現在）ということだ。

思えば、息子も三十数社の就職試験を受けていた。何回となく、東京まで夜行バスで試験を受けに行っていた。不採用の通知に肩を落しながら、憔悴していったのは、まだ一昨年のことである。

効率化という言葉は、もう耳にタコができるぐらい聞かさ

れでいるが、無駄なことを省き、より生産性を上げていこうという言葉なのだろう。しかしながら、その方向に向かつている現状から「孤立無業」を生み出しているということは事実である。

誰しもが自分も「孤立無業」の一人になるかもしれないと思

戦々恐々としながら、緊張とストレスの中で身を小さくして生きているのが現状である。

実は、効率化し無駄を省くことによって、人間が人間性を喪失し、豊かさや生きることの意味までもが失われている。

お念佛の御教えに生きられた先達の多くは、目先の無駄ではなく、人として生まれたこと・生きることを無駄にしない智慧の眼を賜りながら、「いのち」が生き生きと、喜べる聴聞をされたのではなかろうか。

「仏法を聞くということは、身がよろこぶことである。我々は頭がよろこぶような聞き方をしているのではないか。」と、和田禪師が以前講義の中で言っていた。頭がよろこぶような聞き方で、劫濁（濁つた世）を生き、身小（身を小さく）して、毒蛇惡龍（おそろしい思いを抱え）ながらも、スイスイと生き、仏法を聞いているつもりの私であることを、いまさらながら思い知らされることである。

分陀利華

帰去来、他郷には停まるべからず。

仏に従いて、本家に帰せよ。

『法事讚』 善導大師

「庶民」という言葉は辞書に「世間一般の民衆。大衆」と載っている。今は、ほとんど使われることがなくなり、「国民」や「市民」という言葉がほぼ同義語として使われているように思う。しかしながら「庶民的」とか「庶民派」という言葉は、今でも多く使われている。

「庶民」という言葉には、何かしら人と人との通じ合っていく温もりがあるようだ。

今、我が生活は、もはや「庶民」ではなくなった。各部屋は照明を眩しいばかり照らし、ばらばらに食事を摂り、それぞれに何を願い、何に悩み、何に迷い、何を求めているのかも互いに分からぬまま、同居し、ただ顔を突きあわせているだけの毎日である。その私の有様を「我、今、帰するところ無く、孤独にして同伴無し」と、源信僧都は『往生要集』の中で言い当てられている。

仏の教えに出遇わないかぎり、私の生活が「孤独にして同伴無し」であることに気付かない。私の根底にある、本当の私の願いは、「『庶民』としての温もりを取り戻し、家族が互いに通じあつた家庭でありたい」ということではないか。その願いに素直に耳を傾け、自分自身の生活の事実を知らされる。それこそが、仏法を聴聞するということなのだろう。

梅香記

当院東側に面した市道は、金戒光明寺への参拝者の往来が非常に多く、当院の境内から越境している樹木の剪定が以前より問題となっていた。

三月十一日と十二日に、歩行者の安全確保のために当院東側の樹木の剪定を行った。

また石壙の上の木の根の成長により石壙の石が歩道に落下した。同日石壙の上の木を伐採し、石壙修復も行つた。



＼別院往来／



一〇一二年

十一月十六日

挙式

村上祐啓さん

紗希さん

結婚式予約状況

* 予約状況はホームページをご覧下さい

○六月二日

本多家

○六月九日

大谷家

【託児室】



【茶話会】



【講義】



去る二月二十八日（木）午後二時より、真宗大谷派大谷婦人会岡崎別院支部「蓮華の集い」主催の「お寺で聞く子育てのお話会」が開催された。当日は、大谷婦人会会长大谷妙子様をはじめ、顧問大谷敦子様と委員長の宮本春美様が来院された。

約四十名の参加者は、まず初めに、前大谷中高等学校長真城義麿先生から「子育てを仏法に聞く」という講題のお話を拝聴した。その後、書院へ移り、茶話会に参加した。

なお、保育士二人による託児室が設置された。

参加者の中には、「お寺ではじめてお話を聞きました」という若いお母さんもおられた。

茶話会では、始終和やかな雰囲気の中、日ごろ疑問に思っていることや、先生のお話についての質問など、コーヒー・紅茶・クッキー等でひと時を過ごした。四時過ぎに散会した。

＼次回のご案内／

日時：一〇一三年五月二十五日（土）午前十時～正午迄

講師：大谷大学教授 佐賀枝 夏文 先生

講題：「樹木がそつと教えてくれた物語」

- 六月八日 杉山家
- 九月二十九日 発知家

＼蓮華の集い／

△法座案内△

宗祖を訪ねて

- 四月二日(水)十四時～輪番
- 五月三日(金)十四時～輪番
- 六月三日(月)十四時～輪番

味読正信偈

- 四月十三日(土)九時半～輪番
- 五月十三日(月)九時半～輪番
- 六月十三日(木)九時半～輪番

定例法話

- 四月二十三日(火)九時半～

東本願寺教学研究所研究員

武田未来雄師

- 五月二十三日(木)九時半～

山城第二組唯明寺住職

龜田晃巖師

- 六月二十三日(日)九時半～

山城第二組妙誓寺住職

大橋秀暢師

今年度の五月三日(金)の聖跡参拝は、「六角堂」(宗祖が二十九歳のとき百日参籠された地)・「御遷化の地」(宗祖が亡くなれた地)・「安養寺」(吉水教団があつた地)・「延仁寺」(宗祖が荼毘にふされた地)・「誕生院」(宗祖ご誕生の地)の参詣訪問を予定しています。おひとりでも多くのご参加をお待ちしています。

また、今年で京都近郊の宗祖のご旧跡はほぼ訪問しました。明年は「越後の宗祖」を、明後年は「関東の宗祖」の聖跡参拝を予定しています。

なお日程については下記を、詳細については別院までお問い合わせください。

この機会をご縁として、皆様と御参拝できればと願っています。皆様方のご参加をお待ちしています。

**宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡
真宗大谷派(東本願寺)**

岡崎別院

〒606-8335

京都市左京区岡崎天王町26番地

電話・FAX 075-771-2921

<http://okazakibetsuin.com>
info@okazakibetsuin.com

△宗祖の越後御旧跡参拝の旅△
△越後の宗祖を訪ねて△

三日講の聖跡参拝では、二〇〇九年度以降二〇一二年度までに「磯長の聖徳太子御廟」(宗祖が十九歳のときに夢告を受けられたと伝えられる地)・「青蓮院」(宗祖お得度の地)・「安樂寺」(承元の法難で死罪となつた安樂房の廟所の地)・「二尊院」(七ヶ条の制誠がある地)を訪れました。

月日	行	程
5月 (水) 7日	8:00 岡崎別院前 → 8:30 京都東ic → 11:30 加賀ic → 11:40 加賀市内 (ご昼食) → 12:40 名立谷浜ic → 15:50 居多ヶ浜	16:10 16:20
5月 (木) 8日	7:00 (ホテルにてお朝事) → 8:30 ホテル → 9:10 あしんの里記念館 → 9:50 光源寺 → 10:30 上越市内 (ご昼食) → 11:20 11:30 12:20 → 12:30 上越ic → 14:20 新津ic → 14:40 水原・無為寺 → 15:30 15:40 鶴淵 → 16:20 16:50 須 赤倉温泉(泊)	
5月 (金) 9日	8:00 お宿 孝順寺 → 8:40 安田ic → 9:30 長岡ic → 9:40 新潟県立歴史博物館 (親鸞となむの大地展) → 10:40 10:50 米山ic → 11:50 12:30 → 12:40 13:30 13:40 米山ic → 20:20 20:40 須 京都東ic → 岡崎別院前 (ご昼食)	

期間：2014年5月7日(水)～9日(金)

費用：大人一人￥48,000(予定)

*行程は変更する場合があります。

*定員：30名